

## Rakuyomi 世界景気は2024年にかけて減速も、2025年には持ち直し

～投資環境の変化が見込まれる中、クオリティ株に注目～

欧米では、インフレ率が鈍化傾向にあるほか、これまでの利上げの効果が今後、表れると見込まれることもあり、利上げ局面は終了したか、終了が近いとの見方が台頭しています。他方、10月に発表されたIMF(国際通貨基金)の見通しでは、GDP成長率が、先進国では2022年の前年比+2.6%から、2023、24年にはそれぞれ、+1.5%、+1.4%に鈍化することなどから、世界についても、+3.5%から+3.0%、+2.9%に鈍化するとされています。ただし、2025年には、世界のGDP成長率は+3.2%に持ち直すとされ、景気は加速に転じる見通しです。

## 世界株式のうち、クオリティ株、小型株、高配当株では景気減速局面において耐性が見られる

左下のグラフは、1999年以降の世界景気の加速・減速それぞれの局面における、世界株式(配当込み、米ドル・ベース)の主要スタイル毎の平均騰落率です。また、右下のグラフは、1998年末から今年10月末までのスタイル別の株価推移です。

これらを見ると、景気の加速局面で最も大きく値上がりし、減速局面でも2番目に大きな値上がりとなった小型株が、中長期で最高のパフォーマンスを記録しました。中長期で小型株に次ぐパフォーマンスとなったのは、収益力が強く、財務も堅実なクオリティ株です。クオリティ株は、景気の加速局面で世界株式全体を上回る値上がりとなったほか、減速局面では最大の値上がりとなったことが好パフォーマンスにつながりました。そして、中長期パフォーマンスの第3位は、景気の加速局面では世界株式全体を下回る値上がりとなったものの、減

速局面ではクオリティ株や小型株に次ぐ値上がりを記録した高配当株です。一方、グロース株は、景気の加速局面では小型株に次ぐ値上がりを記録したものの、減速局面での値下がりが足を引っ張り、中長期パフォーマンスは振るいませんでした。

## 投資効率に優れるクオリティ株

次に、主要スタイルのリターンやリスクを比較すると、小型株は、リターンが最も高いものの、株価の振れの大きさからリスクも最も高いため、リスクあたりのリターン(表のリスク・リターン比)、つまり、投資効率は最高とはなっていません。一方、クオリティ株の場合、リターンでは小型株に及ばないものの、リスクが最も低いため、投資効率が最も高くなっています。

中長期の投資に当たっては、景気は常に変動し、良い時もあれば悪い時もあるということを念頭に置いた上で、相対的にリスクが低く、投資効率の高いクオリティ株に注目してみてもいいのではないでしょうか。

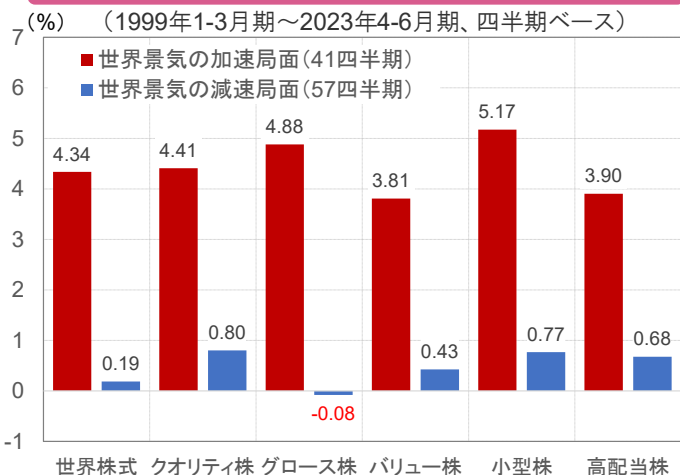
## 世界株式のスタイル別の価格特性

(1999年1月～2023年10月の月次データに基づく)

単位: %	世界株式	クオリティ株	グロース株	バリュー株	小型株	高配当株
年率リターン	7.00	8.65	7.13	6.77	9.38	7.53
年率リスク	15.72	14.63	16.64	15.88	17.96	15.02
リスク・リターン比	0.45	0.59	0.43	0.43	0.52	0.50

リターンは月次リターンの平均、リスクは月次リターンの標準偏差を、それぞれ年率換算

## 景気加速・減速局面での世界株式の平均騰落率



## 世界株式のスタイル別の株価推移

(1998年12月末～2023年10月末、月次)

